

和船を訪ねる旅

高石敬史

1. はじめに

「三等船大工の眩き」(一)～(十)など、船大工道具や木造船建造に造詣の深い山田佑平氏から、著書多数をいただいた縁で、木造和船について勉強することになった。氏は、その後も和船の技術の掘り起こしと継承についても活躍されており、引き続いて著作を送っていただいている。しかし、資料や著書だけでは、木造和船にほとんど触れていない者にとって、隔靴搔痒の感があるので、出来るだけ実物を見る必要を感じていた。

一昨年5月に、佐渡旅行をして、たらい舟や北前船の復元船を見てまわったのが、「木造和船を訪ねる旅」への契機となった。昨年は、山田氏(函館在住)に直接会って、氏の最近の研究成果を教示してもらおうと共に、青森や函館にある木造和船の博物館・資料館を訪れて、北日本で働いていた和船の実態に触れる機会を持った。この年は瀬戸内海や日本海沿岸にも足を向けた。

本年は、新潟市歴史博物館における「特別展」とミニ・シンポジウムに参加した。

2. 訪問した博物館など(映像により各地の木造和船を示す)

2.1. 佐渡の博物館(2005年5月、山川氏、吉井氏と同行)

- a. 佐渡国小木民俗博物館(宿根木小学校の校舎利用)、「白山丸展示館」、北前船復元船や磯舟展示
- b. 海運博物館(佐渡市小木) 北前船による海運、佐渡海峡の最後の和船「幸丸」実物展示
- c. たらい舟：小木の漁村、小木港(観光)

2.2 みちのく北方漁船博物館(青森市)

- a. 「むだまはぎ」という独特の木造和船構造のいろいろが実物で展示されている。
- b. 木造大型漁船、ヨット、北前船の復元船みちのく丸、海外の舟なども多数展示。
- c. 「ムダマハギ」の造船過程と操船のCD2巻が興味深い。

2.3 山田氏との懇談

北大水産学部の蛇沼助教授のご好意で、その研究室において山田氏を交えた懇談を行った。山田さんとは初対面ながら、最近の資料を見せていただきながら熱心に説明していただいた。

a. 「道南の磯舟」

青森の「みちのく北方漁船博物館」に納めた舟の図面30隻分。

山田氏自身の測量・スケッチをもとに製図したもの。出版が待たれる。

b. 「同上舟の紹介記事」；再発見の経緯、内容、補遺、図説など

c. 「和形作業船及び洋形曳船の詳細」1/4, 2/4, 3/4, 4/4 四分冊

元日魯漁業会社の自社作業船の社員用マニュアル(原本はA5判)

2.4 北海道大学水産学部水産資料館(函館) 蛇沼氏の案内で見学した。

漁具・漁法・漁船模型多数が収められている。もちろん魚類の標本も多数あり。

和船模型目録；上野元一、久新健一郎、中村秀男、稲葉恭人共著。

2.5 その他函館の博物館

- a. 北方水産資料館(函館)；北洋漁業の歴史と技術

- b. 函館市立博物館（函館）；山田氏などが収集した船大工道具を所蔵。
- c. 同五稜郭分館；戊辰戦争の歴史を展示

2.6 瀬戸内海歴史民俗資料館

- a. 打瀬網漁船、木造和船の製作過程模型、櫓、など
- b. 資料：瀬戸内の漁船・廻船と船大工調査報告（第1年次）昭和61年3月
瀬戸内の漁船・廻船と船大工調査報告（第2年次）昭和62年3月
瀬戸内の漁船・廻船と船大工調査報告（補遺）昭和63年3月

2.7 新潟市歴史博物館「船と船大工」特別展

- 丸木舟、潟舟、川船など木造和船、と船大工道具を展示
- 同展ミニ・シンポジウムー木造船の魅力を語るー
- 池田哲夫；フネと舟、桜田勝徳による舟の発達形態、日本海側の舟の特徴
- 中川伸一；コーレンボウ（川船）について
- 福井宣明；潟舟製作過程の概要
- 鶴巻康志；新潟平野における舟運のはじまり（考古学的考察）

2.8. その他これまで訪れた博物館（木造和船展示を中心として）

- a. 船の科学館
- b. 大田区立郷土博物館
展示：「のり船」の実物、資料：大田区の船大工ー海苔の船を造るー、（1996）
- c. 沼津市歴史民俗資料館（沼津御用邸記念公園内）
駿河湾の漁船（特別展）、1995、チャカ船の模型
- d. 戸田造船郷土資料博物館
(1) 「ディアナ号」模型と遺留品、「ヘダ号」模型と日露交流、日本近代造船の曙を担った人々
(2) 駿河湾深海生物館（タカアシガニなどの標本展示）を併設
- e. 琵琶湖博物館
丸子舟の実物展示、琵琶湖の水運、漁業、など
- f. 北前館（兵庫県城崎郡竹野町）
北前千石船の里、北前船天神丸 1/5 模型を展示
- g. 海の文化館（兵庫県美方郡香美町香住区）と香住漁港
木造和船カンコの実物、魚類の標本などの展示、近くの香住漁港で、たくさんのFRP漁船（イカ釣り、かに）の中に、一隻の木造漁船があった。陸揚げ中で、船底を見ることができた。
- h. 開陽丸記念館（北海道檜山郡江差町）
「開陽丸」海底遺跡の発掘調査報告-1（1982）
- i. 第五福竜丸展示館（東京都江東区夢の島）
第五福竜丸（木造マグロ漁船、1954年ビキニ環礁の水爆実験で被曝）

3. おわりに

- 謝辞：山田佑平氏（木船設計・建造技術者、船大工道具の収集者、函館市在住）
- 阿部有之氏（みちのく北方漁船博物館館長）
- 蛇沼俊二博士（北海道大学大学院）

資料編

1. 山田佑平氏の著作・資料（高石・山川保管、順不同）

(1) 北の船大工道具―函館の刃物鍛冶と造船所、函館産業遺産研究会・編著（平成11年3月10日）
函館型船大工道具と刃物鍛冶の系譜、船大工道具の解説、
木造船の建造工程と使用道具、収集した道具の総括と考察

船大工道具一覧、大正・昭和前期の函館の造船業

(2) 和漢船用集抜粋

前文

第十、第十一、第十二

(3) 全国和船研究会へ提出の北の木船に関する資料
3巻（平成9年～11年）

船大工道具収集に当たっての函館型について

函館の産業遺産 No. 1

函館の産業遺産 No. 2

和漢船用集に見る工匠の具と北の船大工道具など

和漢船用集抜粋

造船工ニ対スル必要ナル道具名称及び所要数量
収集の経緯と職人の形態など

複本「和漢船用集」にみる舟大工道具

同（平成11年～12年）

我が国が、カムチャッカ沿岸、沿海州、北千島方面の漁場で使用した和形船など

大型むだま造り和船の経緯とその終焉など

同（平成13年～14年）

函館で収集した磯舟三態

戦前の或る大手水産会社付属造船所の見習工用
教本

北の和船のこがたなど

漁船 日魯漁業株式会社七重浜工場 昭和拾年度

実習生一同、昭和拾壹年三月参拾一日発行

資料「漁船」の紹介ほか、

山田佑平 平成19年5月

(4) 三等船大工ノ眩キ(一)～(十)

三等船大工ノ眩キ(一)

1. 田舎の造船場へ学士様が来た
2. 収集した船大工道具の現在
3. 木の船の事を伝える
4. 柔らかい木の船、堅い木の船
5. 失われた船大工職へ…
6. 三等船大工の眩き
7. 船大工へ
8. 日魯漁業(株)七重浜造船所のこと
(別紙)北の船大工道具を発行して

三等船大工ノ眩キ(二)

1. 大きい船と小さい舟と
2. 都会で造る木の舟と田舎で造る木の舟、
そして造船場の舟と個人の舟
3. 収集した船大工道具について
4. 風呂屋(銭湯)と船大工
5. 船大工職の記録が少ない事について
6. 再三等船大工の眩き(船大工の移住)
7. 再々三等船大工の眩き(“)
8. 和船への鋼ボノレトの使用は何時頃からか
9. 最後の?川崎船のこと

三等船大工ノ眩キ(三)

1. かしめ釘を以って固着すべし
2. 木船の水密隔壁について
3. 三等船大工と造船学(一)
4. 三等船大工と造船学(二)
5. 舳(へさき)を造る(一)、(二)

三等船大工ノ眩キ(四)

1. 良い船
2. 寸と耗と吋
3. 北の船大工
4. 船大工職の消滅を見て
5. 北国の船大工作業言葉
6. ドーレイというラッコボートのこと

三等船大工ノ眩キ(五)

- 1.のみうちー
2. 10 人の船大工見習
3. 型受について
4. 和船型の寸法など

三等船大工ノ眩キ(六)

1. 船大工と船の図面の事など
2. 木造船の船釘
3. 戦前の木船と戦後の木船

三等船大工ノ眩キ (七)

1. 職人船大工の技術伝承
2. 大型木船建造の末期など
3. 殊更に木の船の事を細々と書く事の意味
4. 木の船のただらと填材
5. 櫓樫の事など

三等船大工ノ眩キ (八)

1. 戦前から戦后にかけて函館港で使われた木造船他
2. 和船の櫓樫について (その二)
3. 咸臨丸の構造図
4. 木造船の建造作業工程について
5. 付属 幕末軍艦咸臨丸の図を見て思うこと、八戸工専の「地域史研究」13号への投稿文

三等船大工ノ眩キ (九)

1. 資料「漁船」の紹介
2. 再発見された北洋漁業の和船と他の資料について
3. 資料「漁船」の内容について
4. 復刻した資料「漁船」への補遺
5. 旧日魯漁業(株)の北洋漁場における和洋作業船について
6. 木船時代～鋼船時代を生きて良い木の船々を見たのか
7. 木船の棚板や外板の接合に通し鋸を使う意味
8. 木船構造の絵図(洋)

三等船大工の眩キ (十)

1. 平成10年に廃止された木船諸規則(旧運輸省)を振り返って
2. ベトナムで木造漁船を造る(職人技術的なこと)
3. 旧日魯漁業(株)の構造と図の説明を主とした露領漁業(北千島を含む)・・・の和形作業船
4. 旧幕府の軍艦開陽丸の図面のこと